

2016年1月30日(土)

「第八回新春府中寄席」三笑亭可龍の落語会」

新春恒例の「府中寄席」。会場を1階コンベンションホールに移し、気分も新たにご出演いただいたのは府中市出身の若手落語家、三笑亭可龍さんです。



可龍さんは当日のお客様の雰囲気や観客の反応で演目を決められます。
今回は江戸町人の人情味溢れる2席です。

【演目1つめ「黄金の大黒（きんのだいこく）」】

大家さんから集まるよう言われた長屋一同。さては溜まった家賃の催促かと思いきや・・・大家さんの坊ちゃんと長屋の小倅が金の大黒さんを掘り出したので、長屋の皆を集めて祝いをしようという。「大家と言えば親も同然 店子と言えば子も同然」という言葉もありますように、家賃滞納であってもその暢気なこと。羨ましいですね。

【演目2つめ「蛙茶番（かわずちゃばん）」】

おだてにまんまと乗せられて、素人芝居の舞台番を任された建具屋の半さん。惚れた娘

の前で格好の良い所を見せたいと湯に行き男ぶりに磨きをかけるのですが・・・。
腕を振り上げ膝をたてての大きな動きの熱演に、笑いが止まらなくなりました。



新春らしい華やかな装いの
可龍さん。

図書館には、ご紹介したい落語や
江戸文化の本がたくさんあります。



府中市出身の落語家さんという事で、ご自身のエピソードなども盛り込んでのお話に、
とても親しみを感じられたというご感想をいただきました。

また小さいお客様を大事にされる可龍さん。前列で聞き入っているお子さんに話しか
けながら大人も楽しめる小話を進めていく技は、さすがは真打。

今年も会場に大きな笑顔をお届けすることが出来ました。

来年もぜひ皆様お越しく下さい